

第5回由良川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成18年3月14日（火） 14：00～16：00

開催場所：サンプラザ万助 3F 寿光の間

出席者：川合座長、井上顧問、槇村顧問、
三谷委員、牧委員、村上委員

議事次第

1. 開会
2. 由良川の整備状況について
3. 整備計画の状況について
4. 台風23号による由良川洪水災害に関する流域懇談会の見解について
5. 意見交換
6. 閉会

議事概要

：委員の意見 Q：委員の質問 A：事務局の回答

1. 由良川の整備状況についての質疑応答と意見

Q：非常に多くの情報が提供されるなかで、その情報を住民の行動に結びつけるのは難しい。情報を行動に結びつけるためにどのような取り組みをしているのか。

A：地域住民に対しては、関係自治体は自主防災組織をきめ細かく立ち上げる取り組みをされている。さらに河川管理者は、関係自治体が的確な避難勧告を発令できるように、河川情報の意味と想定される状況を説明している。

ドライバーに対しては、道路管理者、警察、河川管理者等関係機関が連携して対処する必要がある。通行規制マニュアルも作成されている。

Q：河守地区築堤施工中の亀裂発生の原因は何か。造っている途中で亀裂が発生するというのは、一般の感覚では理解できない。

A：現在原因究明を進めており今後の対応策と併せて公表させていただきたい。

Q：河守地区築堤施工中の亀裂に関して、今年の出水期までにどのような対策をとるのか。

A：原因究明を踏まえ今年の出水期までに適切な対応を実施しなければならないと考えている。

高齢者や病人等、災害弱者の避難方法、防災対策を具体的に指導して欲しい。

地域防災力向上についての取り組みは、地方自治体が主導して行うことが多いと思われる。自治体をもっと前面に出す必要があると思われる。説明図の作成にあたってはそのあたりは配慮すべきである。

災害の教訓が薄れてしまわないように、出水期前には毎回、情報提供についての周知や、防災マニュアルの見直し等を継続して行っていただきたい。

市町合併や過疎・高齢化等により防災の要であるリーダーシップをとる人や拠点機能が稀薄になる。自主防災組織もそうだが、消防団も高齢化により十分に機能できなくなっており限界がある。

消防署主導の防火訓練は非常に意義あるものだったと思う。水害に対する訓練はどこが主体とな

るのかわからないが、水害に対する意識が高まっている今こそ、水害に対する住民を巻き込んで訓練をぜひ実施して欲しい。

自主防災組織の構成メンバーは男性が多いが、女性のほうが昼間家にいることが多いので、女性ももっと参加できるようにすべきではないかと思う。

由良川における河川事業、ソフト対策、土地利用規制を組み合わせた防災対策は全国的にも珍しく、非常にいいものだと思うので、由良川流域の取り組みとして全国に発信して欲しい。

2. 整備計画の状況についての質疑応答と意見

Q：台風 23 号と昭和 28 年洪水の 2 日雨量確率はそれぞれどの程度か？

A：台風 23 号は 1/40 程度であった。また昭和 28 年洪水は概ね 1/100 相当と考えている。

Q：河川整備基本方針の見直しを含めた検討を行う場合、治水・利水・環境面で非常に大きな変更の可能性があると思うが、どのようなメンバーで検討を行うのか。また、各分野の専門家の意見は反映しないのか。

A：河川整備基本方針の見直しも含めた検討は河川管理者で進めている。今後、要所で懇談会に説明させていただきご意見を頂きたい。

台風 23 号の 2 日雨量が昭和 28 年洪水に比べて小さいのに、ほぼ同程度の流量が生じたのは、降雨の地域的・時間的集中が原因だと思われる。

台風 23 号のときには支川の本川への流入地点で大きな氾濫を生じた。山の荒廃が原因で支川からの流出量が増加したのではないかと思われる。治山と治水は密接に関係していると思われるので、山の荒廃の面からも検討を行って欲しい。

大きな洪水に対して、山の保水能力そのものには期待できないと思うが、山の荒廃により土砂や流木の流出が生じ、河川の疎通能力を下げる恐れは考えられる。

3. 台風 23 号による由良川洪水災害に関する流域懇談会の見解についての意見

降雨の地域的・時間的集中も大きな洪水を引き起こす原因と思われるので、これらについても検討課題に含めて欲しい。

ハザードマップの作成責任が地方自治体にあることを明確にするため、ハザードマップの作成主体が地方自治体であることを明記して欲しい。

上記の意見を踏まえ修正したい。

4. その他

【事務局】懇談会各顧問・委員の任期が平成 18 年 3 月までとなっている。引き続き任期延長について、今後手続き等のご協力をお願いする。

以上